

詩篇 4、6 篇

「悩める境遇との戦い」

詩篇 4 篇

- 4:1 私が呼ぶとき、答えてください。私の義なる神。あなたは、私の苦しみのときにゆとりを与えてくださいました。私をあわれみ、私の祈りを聞いてください。
- 4:2 人の子たちよ。いつまでわたしの栄光をはずかしめ、むなしいものを愛し、まやかしものを慕い求めるのか。 セラ
- 4:3 知れ。【主】は、ご自分の聖徒を特別に扱われるのだ。私が呼ぶとき、【主】は聞いてくださる。
- 4:4 恐れおののけ。そして罪を犯すな。床の上で自分の心に語り、静まれ。 セラ
- 4:5 義のいけにえをささげ、【主】に抛り頼め。
- 4:6 多くの者は言っています。「だれかわれわれに良い目を見せてくれないものか。」【主】よ。どうか、あなたの御顔の光を、私たちの上に照らしてください。
- 4:7 あなたは私の心に喜びを下さいました。それは穀物と新しいぶどう酒が豊かにあるときにもまさっています。
- 4:8 平安のうちに私は身を横たえ、すぐ、眠りにつきます。【主】よ。あなただけが、私を安らかに住まわせてくださいます。

詩篇 6 篇

- 6:1 【主】よ。御怒りで私を責めないでください。激しい憤りで私を懲らしめないでください。
- 6:2 【主】よ。私をあわれんでください。私は衰えております。【主】よ。私をいやしてください。私の骨は恐れおののいています。
- 6:3 私のたましいはただ、恐れおののいています。【主】よ。いつまでですか。あなたは。
- 6:4 帰って来ててください。【主】よ。私のたましいを助け出してください。あなたの恵みのゆえに、私をお救いください。
- 6:5 死にあっては、あなたを覚えることはありません。よみにあっては、だれが、あなたをほめたたえるでしょう。
- 6:6 私は私の嘆きで疲れ果て、私の涙で、夜ごとに私の寝床を漂わせ、私のふしどを押し流します。
- 6:7 私の目は、いらだちで衰え、私のすべての敵のために弱まりました。
- 6:8 不法を行う者ども。みな私から離れて行け。【主】は私の泣く声を聞かれたのだ。
- 6:9 【主】は私の切なる願いを聞かれた。【主】は私の祈りを受け入れられる。
- 6:10 私の敵は、みな恥を見、ただ、恐れおののきますように。彼らは退き、恥を見ますように。またたくまに。

はじめに

今週は、詩篇 4 篇と 6 篇をセットにして学びます。このふたつの詩篇が取り扱う状況が似ているからです。

ダビデは、詩篇 4 篇で非常に困難な状況に置かれ、苦しんでいました。そして、詩篇 6 篇でもまた、つらい時期を過ごしていました。

このふたつの詩篇から、置かれた境遇に苦しむダビデの心の内が見て取れます。

私たちは、人生の苦難に遭うと傷つき苦しみます。神はそのことをわかってくださいます。このふたつの詩篇は、神がわかってくださいという事実気づかせてくれます。

しかし、つらい目に遭って涙を流したり、悲しみを口にしたりしても、私たちはさまざまな問題を乗り越えることができます。困難に打ち勝つことができます。

私たちクリスチャンは悩み事や問題があっても、自分は無力だからもう前を向いて生きていけないなどと思っははいけません。

私たちが人生の暗闇の中にいるとき、イエスが「わたしは世の光です」と言ってくださることを思い出す必要があります。

私たちを取り囲む環境が過酷でも、心の中に慰めや喜びを求めて頼るべきお方がイエスです。

パウロは、自らの試練に次のように立ち向かいました。

コリント第二 4 : 8-9

4:8 私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。 4:9 迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

今日のふたつの詩篇では、ダビデは自分の抱える問題を確認します。さらに、自らの信頼や確信の源を指し示し、つらいときでも前進する道しるべを示してくれます。

1. 悩んだとき、ダビデはまず祈った。(詩篇 4 : 1、6 : 1-3)

詩篇 4:1 私が呼ぶとき、答えてください。私の義なる神。あなたは、私の苦しみのときにゆとりを与えてくださいました。私をあわれみ、私の祈りを聞いてください。

詩篇 6:1-3

【主】よ。御怒りで私を責めないでください。激しい憤りで私を懲らしめないでください。
6:2 【主】よ。私をあわれんでください。私は衰えております。【主】よ。私をいやしてください。私の骨は恐れおののいています。 6:3 私のたましいはただ、恐れおののいています。

【主】よ。いつまでですか。あなたは。

クリスチャンが大きな試練に遭うとき、必ずしも真っ先に祈ろうとはしません。その理由は、その出来事に動揺していたり、深く傷ついていたりにして、とても祈れないと感じるからです。

祈っても、不健全なかたちで神に怒りや悲しみをぶつけるだけです。

けれども、良い知らせがあります。ダビデも動揺して怒りも感じていました。自分の置かれた状況に傷ついていました。けれども、心のざわめきを隠さず神に祈れる状態でした。ダビデは傷ついていましたが、神にその苦しみを伝える自由が自分にはあると感じていました。

ダビデは、神に自分の心の内を包み隠さず伝えました。

多くのクリスチャンは、つらいときに自分のために祈ってほしいと言います。けれども、まず神の前に出て自分の思いのすべてを神に吐露し、奥深くにあるニーズを神に伝える、ということをしていない場合もあります。

テサロニケ第一 5 : 16-18 は、次のように語ります。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」

困難に見舞われたら、誰かに助けを求めたり祈ってほしいと頼んだりする前に、まず神に自分の苦しみや悲しみを分かち合ってみませんか。

そうすれば、心で感じている苦しみや怒りを取り扱う神の助けがすぐに得られます。

結局のところ、私たちの心を変え、困難に立ち向かう強さを与えてくれるのは、イエスをとおして聖霊によって働かれる神のみです。

2. ダビデは、困難について神に正直に話した。

このふたつの詩篇で、ダビデは自分の置かれたつらい状況について心の中にある思いをそのまま伝えます。

詩篇 6 : 1 では、ダビデは神が怒っておられると考えています。そして、神に懲らしめないでほしいと言います。

ダビデは、神にあわれんでほしいと願います。

そして、彼のたましいが恐れおののいている、と言います。(3 節)

さらに、骨(体)が恐れおののいている、とも言い、体の癒しを神に求めています。

詩篇 6 : 6-7 で、ダビデはどんな夜を過ごしているかを言い表します。

新共同訳では、「夜ごと涙は床に溢れ」とあります。

ダビデは、悲しみのあまり目がよく見えないとまで言っています。(7 節)

詩篇 4 篇にあるダビデの苦境の理由はわかっていますが、詩篇 6 篇を書くに至ったダビデの苦しみは何だったかは定かではありません。

詩篇 4 篇をダビデが書くことになった原因は、息子アブサロムの行いです。アブサロムは、謀反を起こして父を追放しました。

詩篇 6 篇を取り巻く背景ははっきりとはわかっていませんが、これは「7 つの悔い改めの詩篇」として知られる 7 つの詩篇のひとつです。

他の「悔い改めの詩篇」は詩篇 32、38、51、102、130、143 篇です。

この 7 つの詩篇は、私たちが罪を告白して神に近づこうとするときにたいへん役に立ちます。ダビデはこの詩篇 6 篇の中で、信仰によって試練から神を信頼するところまでの変遷を記録しています。

3. ダビデは、彼の置かれた状況の各段階を迫体験させてくれる。(詩篇 6 : 1-10)

a) 懲らしめの苦しみ (1-3 節)

この詩篇の中で、ダビデは神を「主」と 8 度呼んでいます。

これは、神の契約の名です。ダビデは、契約を守ってくださる神に向かって語り掛けていると意識していました。

神は、アブラハムとその子孫に約束をなさいました。そしてダビデはその契約に含まれていました。

その約束には、神に従うことに対する祝福、およびイスラエルの民が神のみことばに背いた場合の懲らしめが含まれていました。(申命記 28 章)

ここでダビデは、神に背いて懲らしめを受けているようです。

ヘブル 12 : 5-11

12:5 そして、あなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていません。「わが子よ。主の懲らしめを軽んじてはならない。主に責められて弱り果ててはならない。12:6 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」12:7 訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるのでしょうか。12:8 もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです。12:9 さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちを懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。12:10 なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。12:11 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。

ヘブル人への手紙の著者は、神の民に対する神の懲らしめは、私たちをきよめ、ついにはイエスに似た者とするための訓練の一部だと語ります。

私たちが心を開き、現状から神の望まれる状態へと神に変えていただくという思いで懲らしめを受け入れるなら、懲らしめは否定的なものとはなりません。

もちろん、懲らしめを受けていることはうれしいことではありませんが、後には神のご計画のためにもっと役立つ者に変えられます。

私たちの不従順に対する対処として神の懲らしめを受けることもありますが、神が私たちを将来に備えて懲らしめ訓練される場合もあります。

懲らしめをトレーニングととらえるクリスチャンもいます。

サッカー、野球、陸上など、どんなスポーツであっても、アスリートたちは皆、鍛えるためにハードなトレーニングをし、そのスポーツの分野で一流となるために鍛錬しなければなりません。

プロのスポーツ選手にとって、肉体にとってはつらいトレーニングも罰ではありません。同じように、神も常に私たちを神に仕える次のステップに備えさせてくださいます。神は、いつも私たちの人生の中で働いておられます。

聖霊の働きに協力して、その経験から学ぶかどうかは私たち次第です。

神の懲らしめという愛を拒めば、よりよいイエスの証人としての成長はありません。

ですから、不従順が原因でも、神がご自身のご計画のために私たちを鍛えようとしておられるのであっても、私たちがイエスに似た者として成長することを神が望んでくださっているのは素晴らしいことです。そして、苦しみに耐える価値が十分にあります。ダビデの苦しみはずいぶん耐えがたいものでした。私たちにとってもそういうときもあるでしょう。

教会でよく礼拝の最後に祈られる祝祷は、神が信徒の人生に働いてくださり、神を喜ばせることができるようにという祈りです。

ヘブル 13 : 20-21

13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、 **13:21** イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行い、あなたがたがみこころを行うことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

b) 神のあわれみに対する確信 (詩篇 6 : 4-5)

試練に遭ったときに確信していなければならないことがあります。それは、「神のご性質」を理解することです。

ユダヤ人は皆、出エジプト記 **34 : 6-7** を知っていました。

出エジプト記 34 : 6-7

34:6 【主】は彼の前を通り過ぎるとき、宣言された。「【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、 **34:7** 恵みを千代も保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に。」

ダビデは、あわれみを示して命を救ってくださいと神に願い求めました。

彼の言い分は、死んでしまったら地上で神の証人となり、神に用いていただくことはできないというものでした。

神がダビデに対してさらなる務めを課しておられると、ダビデは確信していました。そのみこころをなすために、まだ生きていたいと願いました。

イザヤ書にあるヘゼキヤ王と同じ言い分です。

イザヤ 38 : 15-20

38:15 何を私は語れましょう。主が私に語り、主みずから行われたのに。私は私のすべての年月、私のたましいの苦しみのために、静かに歩みます。 **38:16** 主よ。これらによって、人は生きるのです。私の息のいのちも、すべてこれらに従っています。どうか、私を健やかにし、私を生かしてください。 **38:17** ああ、私の苦しんだ苦しみは平安のためでした。あなたは、滅びの穴から、私のたましいを引き戻されました。あなたは私のすべての罪を、あなたのうしろに投げやられました。 **38:18** よみはあなたをほめたたえず、死はあなたを賛美せず、穴に下る者たちは、あなたのまことを待ち望みません。 **38:19** 生きている者、ただ生きている者だけが今日の私のように、あなたをほめたたえるのです。父は子

らにあなたのまことについて知らせます。38:20【主】は、私を救ってくださる。私たちの生きている日々の間、【主】の宮で琴をかなでよう。

神は、へゼキヤの寿命を15年延ばされました。
その15年間に、神はへゼキヤを用いられたはずですが、
ですから、私達も暗闇のような試練に遭うとき、神のご性質を知っていなければなりません。
私達は、神があわれみ深いお方であることを知る必要があります。

c) ダビデの苦悩 (6-7 節)

6-7 節で、ダビデは自分の苦悩を隠したりしません。
これは彼にとって、非常に辛い時期でした。

詩篇 6 : 6-7

6:6 私は私の嘆きで疲れ果て、私の涙で、夜ごとに私の寝床を漂わせ、私のふしどを押し流します。6:7 私の目は、いらだちで衰え、私のすべての敵のために弱まりました。

ダビデは苦しみに眠ることもできませんでした。
つらく辛い体験は、私達をよりよい人間にするか、恨みを募らせるかのどちらかです。
その分かれ道は、「信仰」です。
神に向かって祈り、神の約束を思い起こし、神を信頼するなら、神の恵みが私達の必要にとって十分であるとわかります。

コリント第二 12 : 9

12:9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

「主は、私たちの願ったタイミングで望みをかなえてくださらないかもしれないが、必要なことをなして下さり、私達が神の御名をたたえられるよう助けてくださる。私達が問うべきは、『この問題からいつ抜け出せるか』ではなく、「この問題から何を学び取れるか』である。」
ウォレン・ウィーズビー

d) 救いの喜び (8-10 節)

この時点で、苦しみに喜びという変化が起こっています。
ダビデは、神がなして下さるであろうことを確信しました。もしかすると、ダビデのために神がなして下さったことについて聞いたのかもしれませんが。
ダビデは、上向きな雰囲気のはじめに「不法を行う者ども。みな私から離れて行け。」と言います。
イエスがこの言葉をマタイ 7 : 23 およびルカ 13 : 27 で引用しておられます。
イエスもダビデも、毅然とこの言葉を発しています。
ダビデは、あわれんでくださいという叫びを神が聞いてくださったと確信したので、敵に対して離れるように命じることができました。
どういう状況にせよ、ダビデの置かれた現状も将来も神が掌握しておられることを悟りました。
神は、ダビデのすべき働きを用意しておられ、その働きのための準備期間が完了したのです。
苦しんだ甲斐があったと納得できるのは、クリスチャンにとって大きな喜びです。

つらい境遇の中だけでなく、私たちの心の中にも、神が何かをなしてくださったということです。

イエス・キリストが十字架上で死なれたとき、弟子たちは精神的にも知性的にも大きなダメージを受けました。そして、大半の者はその苦しみに何の益も見出せないでいました。

しかし、3日後にイエスが死からよみがえられ、弟子たちは自分たちの救いをもたらすためにイエスの苦しみが必要であったことを悟りました。

イエスが十字架上で私たちの罪のために苦しんで死なれなかったら、私たち自身が罪のために死んで、永遠に苦しむことになります。

けれども、イエスは確かに私たちの罪の罰を受けてくださいました。そして、イエスを信じ、イエスが十字架上の死をとおしてなしてくださった御業を信じるようにと招いておられます。

あなたは、イエスが罪の赦しを与えてくださったと信じていますか。

もしそうなら、人生に起こるすべてのことについても、このお方を信頼することができます。

イエスが私たちの内にともおられ、良いことも悪いことも神の愛とご計画のうちにあることとして受け入れるなら、すべては最終的に神の栄光のために働きます。